

第1学年 音楽科学習指導案

平成 24 年 2 月 6 日 第 1 校時
第 1 学年 A 級 (男子 名、女子 名)
指 導 者 羽 田 咲 子

1 題 材 サウンドロゴをつくろう

2 目 標

- サウンドロゴに関心を持ち、積極的に表現を工夫しながら創作している。
- 音色や旋律を工夫して、自分のロゴマークにふさわしいサウンドロゴをつくることができる。
- 自分のイメージにあった音色や旋律を作るため、様々な奏法を用いることができる。
- 音色や旋律、強弱の工夫に注目して、友達のサウンドロゴを聴くことができる。

3 指導観

- 本題材は、学習指導要領の第 1 学年の表現の内容 (3) ア「言葉や音階の特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律を作ること」をねらいとして設定したものである。

サウンドロゴとは、「企業や商品のイメージを統一するために使用する、一定の個性的な音響や音楽」のことであり、テレビやラジオのコマーシャルで使われ、コマーシャルの開始部分や終了部分に使われることが多いため、生徒にとって身近で親しみやすいものである。テレビのコマーシャルでは会社や企業名、または商品名にサウンドロゴが付けられている。時間としては 1 秒から 2 秒という非常に短い時間であるが、その音色や旋律の工夫によって、その企業や商品のイメージを見る人に分かりやすく伝えることができ、企業名や商品名を深く印象つけるという効果がある。つまり、サウンドロゴづくりを行うことで、伝えたいもの（自分の名前）のイメージや特徴を分かりやすく相手に伝えるための、音色や旋律、リズムなどの表現の工夫を学ぶことができる。

また、中学校一年生は小学校の音楽づくりから中学校の創作へと滑らかに接続するために重要な時期であるため、サウンドロゴのように、短い旋律づくりなどの取り組みやすい創作活動を積極的に取り入れることは意義深い。さらに、音楽が社会の中で果たしている機能についても学ぶことができ、その機能に惑わされることなく、冷静に判断する力も養うことができる。

- 本学級の生徒は、器楽や歌唱活動への意欲が高く、特に合唱コンクールでは一人一人が積極的に声を出し、協力して歌う姿が見られた。しかし一方で、自分で音楽を作ることへの抵抗が強く、「難しそう」「どうすればいいのか分からない」という生徒が多い。
- そこで本題材では、自分のサウンドロゴをつくる活動を行う。そのために、自分の名前のロゴマークをつくり、それをアニメーションで加工する段階までは、美術科の授業で行っている。

まず導入の段階では、サウンドロゴへの意欲や関心を高めるため、有名な企業のロゴマークを提示し、このロゴマークにふさわしいサウンドロゴはどんなものかを予想し、実際のサウンドロゴと比較する場を設ける。次に、実際のサウンドロゴと、そのサウンドロゴの音色だけを変化させたものを三種類用意し、どちらが良いか考えることにより、そのサウンドロゴの工夫に気がつくことができるようにする。

展開の段階では、創作途中の生徒の作品を紹介することによって、発想を広げることができるようにする。苦手な生徒も取り組みやすいよう、サウンドロゴをつくるためのポイントを提示し、どんな思いや願いを表現したいのか、そのためにどんな工夫をするのか（音色や旋律など）を記入するワークシートを用意する。つまづいている生徒には、一緒に即興的に音を出しながら、自分のイメージにあっているか、あっていないなら何を変化させるか、アドバイスしながら作成することができるようにする。

終末の段階では、作品の発表会をし、自分のサウンドロゴに込めた思いや工夫した点を発表する場を設ける。また、友達の作品の良い点に気づくことができるよう、ワークシートに感想を記入しながら鑑賞するよう指示する。

4 指導計画

- 自分の名前のサウンドロゴを作ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・3時間
- (1) 様々なサウンドロゴを鑑賞し、自分のサウンドロゴのイメージを膨らませる・・・・1時間(本時)
- (2) 音色や旋律を工夫して、自分のイメージに合うサウンドロゴを作成する・・・・1.5時間
- (3) 作品の発表会をし、本題材を振り返る・・・・・・・・・・・・・・・・0.5時間

6 本時の学習指導

- (1) 目標
- サウンドロゴ作りに関心を持ち、自分のサウンドロゴのイメージを明確にする。
 - サウンドロゴの役割を理解し、音色や旋律などの工夫に気がつくことができる。
- (2) 資料及び準備
- パソコン、プロジェクター、リコーダー、ギター、キーボード、木琴、鉄琴。
- (3) 学習指導過程

学習内容及び活動	指導上の留意点	時間
1 ロゴマークを見て、どんなサウンドロゴをつけたらよいか考え、発表する。 ○ その企業のイメージを挙げ、そのイメージを表すためにはどのような音色・リズム・旋律が必要かを考える。	○ 生徒の興味関心が高まるよう、音色や旋律などの工夫が分かりやすいサウンドロゴを紹介する。 ○ 実際にサウンドロゴをつくるときの手がかりとなるよう、ロゴマークにふさわしいサウンドロゴを考える活動を設定する。 ○ サウンドロゴがあることで、その商品や企業の印象を見る人に分かりやすく、かつ印象的に伝えることができることを確認する。	5分
2 本時の学習内容と目標を確認する。 自分のサウンドロゴをつくろう！	○ 生徒が見通しを持って学習できるよう、本時の目標を板書する。	6分
3 本物のサウンドロゴと、本物を変化させたものを比較鑑賞し、どのように印象が違うか考え、発表する。 ○ 音色や旋律、リズムなどの工夫によって、伝えたいイメージを表現していることを確認する。	○ 音色・旋律・リズムなどの音楽の要素の変化により、サウンドロゴの特徴が生まれていることに気がつくことでできるよう、実際のサウンドロゴと、教師の作ったサウンドロゴを比較鑑賞する場を設定する。 ○ 本物のサウンドロゴの、音色だけ変えたもの、リズムだけ変えたものを作成する。	15分
4 サウンドロゴをつくるポイントを確認し、サウンドロゴを作る。 ○ 自分のロゴマークに込めた思いや、マークの印象を書きだす。(明るい、優しい、強いなど) ○ 音色・旋律・リズムを変化させ、イメージに合うものを探す。	○ 音色や旋律等の音楽の要素を確認し、それらを変化させることによって、自分のイメージに近づけていくことを説明する。 ○ 苦手な生徒も取り組みやすいよう、使用する音は5つに限定し、全体の長さは5秒以上にするというルールを決めておく。 ○ 作業が止まっている生徒には、一緒に色々な楽器で即興的に演奏してみながら、アドバイスをを行う。 ○ 自分のつくったパワーポイントに合わせて演奏することができるよう、パソコンを複数台用意しておく。	40分

5 本時のまとめをする。

○ 次時に向けて、もっと工夫したい点や友達の作品の良かった点などを、ワークシートに記入し、発表する。

○ 友達の作品から、自分のアイデアを広げられるよう、何人かの生徒の作品を紹介する。

50 分